

ふるさととよさが 今と昔

その9 国道7号線

■昭和24年の国道10号線（後の国道7号線）

木崎バス停から新潟方向を望む。当時はまだ舗装されておらず、新潟交通のバスが砂煙をあげて走ってくるのがわかる。



現在、国道7号線は新々バイパスに受け継がれ、この道路は「県道新潟・新発田・村上線」となっている。



昭和25年の泰平橋（新潟市）

木製で、車が走るとガタガタと揺れてとても恐かったという、阿賀野川にかかる2代目泰平橋。大正13年完成。



現在の橋は昭和26年に架けられたもの。この橋の上流側に旧橋があった。（写真左側）



昭和7年ごろ、当時の木崎村を東西に貫く大動脈、国道10号線（後の国道7号線）が開通しました。それまでは木崎のまちなかの細い道をバスが走っていたので、新潟・新発田間が大きく時間短縮しました。その後太平洋戦争を迎え、国道10号線の泰平橋から新潟市街側は、軍用機の滑走路としても使えるようにコンクリートで舗装されましたが、泰平橋から豊栄側は舗装されず、木崎地内がアスファルト舗装されたのは昭和32年に入ってからでした。昭和27年に「国道10号線」から「国道7号線」に名前が変わり、平成元年、新々バイパスの全通に伴い、現在は県道となっています。



さあ、寄ってって～！

12月5日（日）、葛塚市（いち）で「葛塚市鍋祭り」が行われました。これは豊栄市場商組合が企画したもので、具だくさんの「豚汁」と「ギスダンゴ汁」を1杯100円でサービス。買い物に訪れた川崎瑠美子さん（内島見）は「こんなのが毎回あったらいいですね」とおもしろそうにギスダンゴをほおぼっていました。



中学生の自信作が勢ぞろい

11月27日（土）から12月19日（日）まで、水の駅「ビュー福島潟」で「第6回中学生フォトコンテスト」が開かれました。友だちと観賞に訪れた小林英樹さん（新潟市）は「着眼点がユニークで面白いですね」と、感心しきりでした。



日本の民族衣装「着物」に親しみませんか

12月9日（木）、中央公民館で着付け教室が行われました。9月から参加している佐藤江梨子さん（上黒山一区）は「以前から着物に興味があり、母の着物で練習しています。お祭りにゆかたを着ました。今度パーティーに出席するので、着物で行きたいです」と話してくれました。（財）民族衣装文化普及協会の藤井先生は「着物は親・子・孫と3代で楽しめます。若い人の参加がけっこう多いですよ」と、和やかな雰囲気の中、指導していました。



お正月は手づくりのしめ縄で

12月11日（土）、湯来亭で「しめ縄づくり体験」が行われました。午前10時に開始して、お昼の休憩を挟んで午後3時30分すぎまでの長丁場。最後は立派に完成したしめ縄を手に、講師から講評を受けていました。



日本語で語る

11月27日（土）、ふれあいセンターで「第2回豊栄日本語スピーチ発表会」が開催されました。今年には日本で暮らす外国出身の7人が、流ちょうな日本語を披露。緊張気味に、趣味の話や日本での生活で感じていることなどを発表しました。



平成18年度に橋上駅完成

12月15日（水）、旧豊栄駅舎内で豊栄橋上駅新築工事安全祈願祭が行われました。豊栄（旧葛塚）駅は、昭和27年12月に葛塚―新発田間が開通以来52年。橋上駅として生まれ変わります。平成18年度中に完成する予定です。

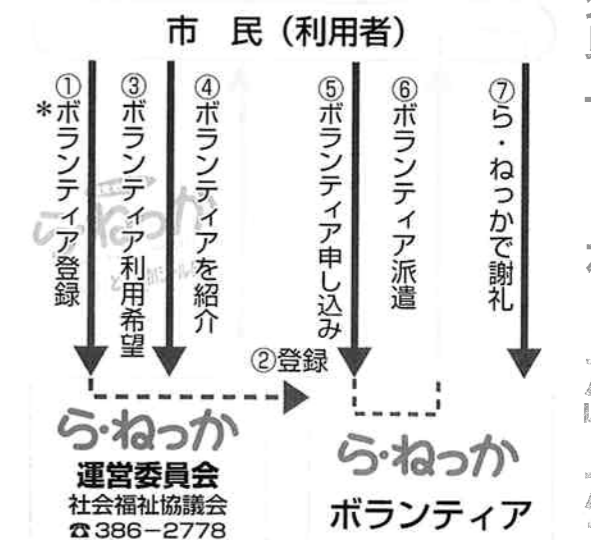


豊栄駅に自動改札機導入

豊栄駅は、12月4日（土）から仮駅舎へ移転し、自動改札機が導入されました。自動改札機の導入は、JR東日本としては新潟都市圏が3番目となるそうです。利用者は、違和感みせずスムーズに改札機を通過していました。

12月1日（水）から地域通貨「ら・ねっか」がスタートしました。従来の「とよさかシール」機能に加えて、ボランティアへの謝礼などとしても利用できます。その仕組みを紹介します。

地域通貨「ら・ねっか」がスタート



*ら・ねっかボランティア登録とは、ボランティアしたい人が登録します。例えば、ごみ出し、買物、除雪、草刈り、病院への送迎などお年寄りや障害者の生活に役立つことであればら・ねっかボランティアとして登録できます。現在 ら・ねっかボランティアを募集中です。